

大館市消防団再編計画

平成 27 年 11 月
大館市消防団本部

大館市消防団再編計画について

1. 再編の目的

近年、局地的な豪雨、台風や豪雪等による災害が各地で頻発し、東日本大震災を始めとする大規模災害の事例から住民の生命、身体及び財産を災害から守る地域防災力強化の重要性が増大しています。

しかし、急激な過疎化、少子高齢化の進展、被雇用者の増加など社会経済情勢の変化により、地域防災力の要である消防団員が減少し、防災活動の担い手を十分に確保することが困難になってきました。

そこで、大館市消防団本部は、今後も続く社会情勢の変化の中であっても、地域防災力の低下を招かぬよう、また、多発・大型化する自然災害にも柔軟に対応できるよう、かつ団員の負担軽減が図れるよう、消防団の新たな組織体制を構築します。

2. 現状における課題

(1) 地域コミュニティの核として存在し、個人事業主や農業従事者等によって充足されていた消防団でしたが、大館市においても就業者における被雇用者の割合が80%を超えるまで増加したことで、災害時の日中動員力が著しく低下しております。そのため、小型動力ポンプの最低運用人数である4人を確保できない班があるなど、大規模災害はもとより、最小限の消防団活動にも支障が出始めています。若い世代は市街地へ移転す

るケースも増え、周辺地は団員の担い手どころか住民そのものが減り続けて、存続自体が危ぶまれている集落があり、根本的な解決が困難になりつつあります。

また、市街地の新興住宅地には消防団員が居ない空白地帯が存在しています。地域コミュニティへの帰属意識が希薄化しているためか、消防団員の担い手が現れないと考えられます。

(2) 消防団の装備については、田代地域は平成の合併前既に車両が配置され、機動力を持った消防団が活躍しています。しかし、大館・比内地域においては、中心部に車両を配備し周辺をカバーしているとはいえ、周辺部は小型動力ポンプが中心となった活動であります。また、救助活動に必要な資機材は、殆どの分団に配備されておらず、危惧される自然災害に対して、十分な対応、活動を行うのが難しい状況です。

3. 再編に向けて

(1) 組織

- ・新しい分団の枠組みは、既存分団の枠組みを壊さずに旧町村単位を基本とします。
(旧大館市街地は南、北、西の3地域に分け、上川沿地区、長木地区、下川沿地区と統合します)
- ・平成28年4月1日、新しい分団の枠組みとなる15の方面隊を組織します。(P11、12参照)
(再編に向けた準備期間中は、「方面隊」という名称を使用し、再編後に大館第1～15分団とします)
- ・方面隊の隊長は、隊内の分団長の中から選出しますが、階級でなく代表分団長という身分になります。
- ・方面隊を組織した後も、各分団は現行と変わりなく運営を行います。

- ・新しい分団の幹部定数は、新たに協議します。

(2) 車両

- ・新たな機動分団化計画を策定し、市全体を車両でカバーします。
- ・新しい方面隊にはポンプ車と積載車(軽タイプ含む)を各1台以上配備します。
- ・配備車両は、広報活動や救助活動も兼ねるため、現行の29台を40台へ増車します。

(3) 器具及び器具置場

- ・各分団の管轄区域における災害危険度に合わせて救助資器材を配備します。
- ・小型動力ポンプは現状のまま維持します。
- ・ホース乾燥塔及びサイレンについては、分団毎にその取扱いについて協議します。
- ・車両の配置換え等で空いた器具置き場は、土のう置場などに利用していただきます。

(4) 新しい分団の担当区域

- ・P15～P28参照

4. 計画の期間

- (1) 平成28年4月1日から平成38年3月31日までは、再編のための準備期間となります。
- (2) 平成28年4月1日、新しい分団の枠組みとなる15方面隊を組織します。
 - ・ 方面隊長を選出し、大規模な火災や災害、訓練大会等において統合される分団が連携して活動を開始
 - ・ 車両・施設・装備の配備計画と活動範囲について、協議を開始
- (3) 平成35年4月1日、新しい分団の幹部定数と人選について、協議を開始します。
 - ・ 各分団毎に新しい幹部定数を定め、幹部の人選を開始
(幹部定数の改定により過員が生じた場合、身分保障はしないで降任します)
- (4) 平成38年4月1日、再編を実施します。
 - ・ 15方面隊は、新分団(15分団、うち女性消防団1分団)となり、活動を開始

5. 活動の充実強化に向けて

- (1) 訓練や操法大会の見直しを図ります。
 - ・大会のための訓練から、より実践的な訓練へ
- (2) 職務遂行能力向上のため、装備品の充実、見直しを図り、教育・研修を行います。
 - ・活動マニュアルの策定とそれに沿った教育・研修を実施
- (3) 情報発信の充実と伝達力の向上を図ります。
 - ・専用ホームページや動画サイト、CATV等で消防団を始めとする地域防災に係る様々な情報を発信
- (4) 共に共助の担い手となる地域の防災コミュニティとの連携・関係を強化します。
 - ・町内会や自主防災組織と連携した防災訓練や避難訓練の実施
 - ・要援護者情報、団員情報など共助のための必要情報の共有
- (5) 地域防災の充実を図るため、各分団に防災リーダーを計画的に養成します。
- (6) 若い現役団員と共に、これからの消防団のための活性化計画を策定します。
 - ・団員の確保
 - (ア) 新たな取組による加入促進
 - (イ) 団員要件の緩和
 - (ウ) 新たな機能別団員を模索
 - ・団員育成
 - (ア) 次世代を担う班長クラスの勉強会の開催

- (イ) 訓練や研修内容の検討
- (ウ) 女性消防団員のあり方、役割など活動の見直し等
- 企業への理解促進
 - (ア) 消防団協力事業所の拡充
 - (イ) 消防団応援の店の拡充
 - (ウ) 学生消防団活動認証制度への理解、協力を推進
- 組織について
 - (ア) 団員の意見を活動に反映させる
 - (イ) 町内会や自主防災組織との連携
 - (ウ) OB会との連携を検討
- 行事、各種大会について
 - (ア) 運営や年間スケジュールについて

大館市消防団本部

団 長 成田十喜男

副団長 齋藤 勉

副団長 浅利重博

副団長 菅原久隆

副団長 北村鉄正

副団長 石川久晴

(資料)

- 計画策定までの経過 P 9～10
- 組織と車両等配備状況の比較 P 11～12
- 大館市消防団現況図 (A3) P 13
- 大館市消防団再編案図 (A3) P 14
- 担当区域図 (第1～14分団) P 15～28
- 災害危険個所の状況 (A3) P 29
- 標準的な救助資器材 P 30

計画策定までの経過

平成27年

- 2月～3月 団本部事務局による素案（小学区を基本とする再編）づくり
- 4月 5日 団本部へ素案説明
※既存分団を解体する再編は不可、現在の枠組みのまま統合する（団長）
小学区を基本とする再編案は廃案、団長による統合案へ修正
- 4月16日 団本部へ修正案提出
- 6月 9日 大館市消防団組織の見直し等に関する検討委員会第1回開催
※サイレン撤去について、住民代表から意見あり。
- 6月23日 大館市消防団組織の見直し等に関する検討委員会第2回開催
※検討委員会の要望で、分団長への説明を優先とする
- 6月30日 再編計画に係る大館市消防団幹部会（分団長）を開催
※再編計画案を説明、分団内での協議を依頼する
- 7月 9日 再編計画に係る大館市消防団幹部会（分団長）を開催
※分団毎に協議結果を聴取り。質問、疑問は文書にて回答
- 7月16日 幹部会で出た質問、疑問のQ&Aを作製し、全分団へ発送
※小型ポンプ等の廃止は取止め、その旨も通知

- 7月28日 再編計画に係る大館市消防団幹部会（分団長）を開催
※全分団長から再編計画案への同意を得る
- 7月30日～ 市内17地域で住民説明会を開催
9月18日 ※延べ参加人数303人
内訳 自主防災組織112人、町内会97人、消防団員92人、その他2人
- 10月9日 大館市消防団組織の見直し等に関する検討委員会第3回開催
- 11月1日 検討委員会委員長が団長へ報告書を提出
- 11月1日 団本部において、再編計画案を再検討、確定。
※団長案により、再編は平成38年4月1日とすることで決定。
- 11月12日 再編計画に係る大館市消防団幹部会（分団長）を開催
※再編計画の同意は得たが、団員の負担軽減について意見があった。
- 11月末 団長から市長へ再編計画の説明、協力要請

組織と車両等配備状況の比較

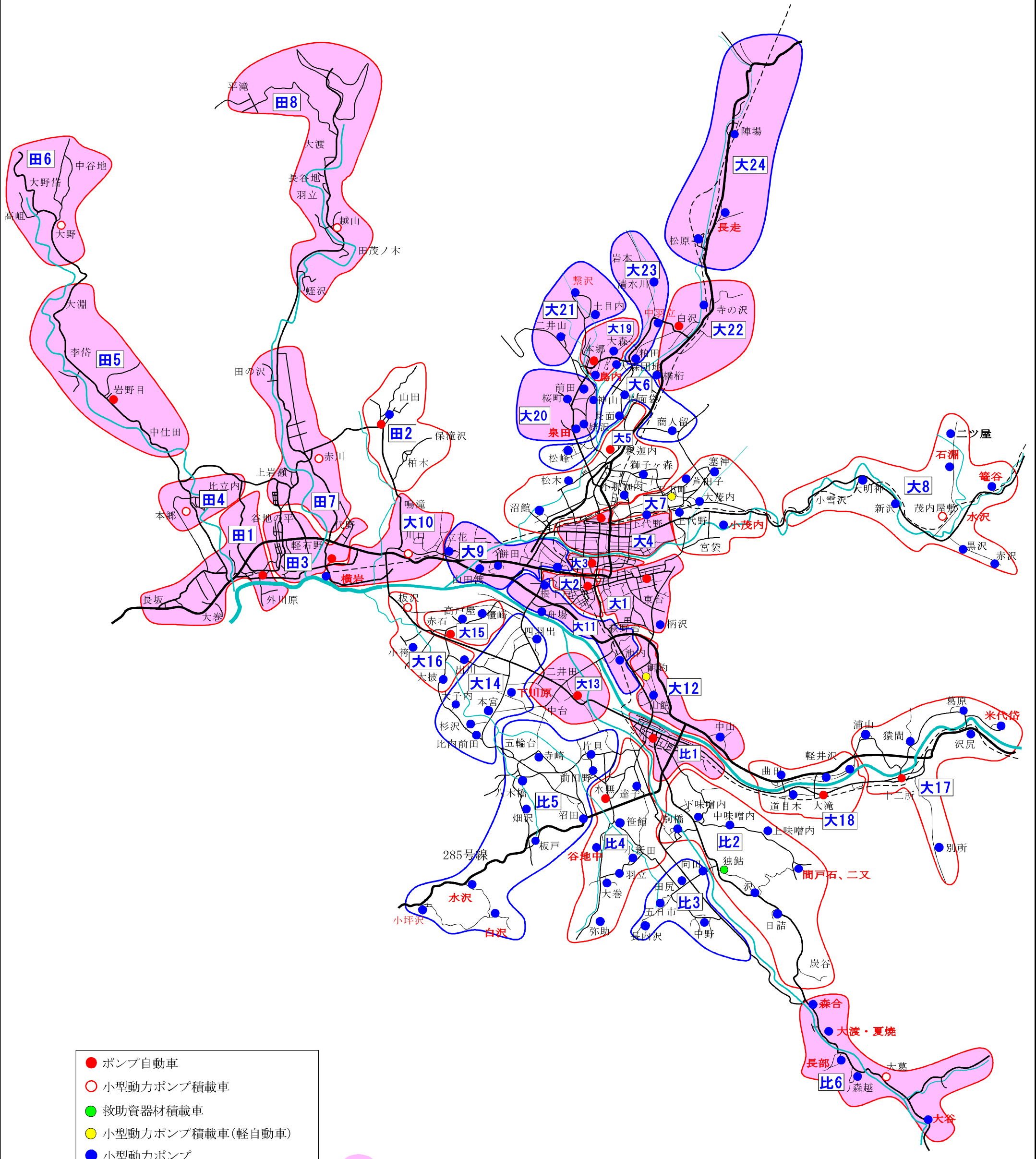
(平成27年4月1日現在)

現 状								
分団別	地域	団員数		車両等 ^{※1}				備考
		定数	実員数	P	S	KS	K	
本部	全域	43	27					
大館1	東台他	26	22	1			1	
大館2	常盤木町他	25	24	1				
大館3	田町他	25	15	1				
大館4	御成町他	25	19	1				
大館5	釈迦内	44	38	1			4	
大館6	松峰他	30	32				4	
大館7	上代野他	40	36			1	5	
大館8	茂内屋敷他	52	39		1		8	
大館9	片山他	21	24				3	
大館10	川口他	23	22		1		1	
大館11	根下戸町他	21	21				3	
大館12	中山他	21	20			1	2	
大館13	二井田	25	24	1				
大館14	杉沢他	39	33				6	
大館15	赤石他	32	33	1			2	
大館16	板沢他	30	27		1		3	
大館17	十二所	50	55	1			6	
大館18	大滝他	43	43	1			4	
大館19	花岡本郷他	26	17	1			3	
大館20	神山他	30	23				5	



準備期間中の組織											
方面隊別	地域	団員数		分団名	所在地	車両等 ^{※1}				備考	
		定数	実員数			P	S	KS	K		
本部	全域	41	27								
第1	市街地南	89	78	大館1	東台	1					
				大館3	田町	^{※2} ①					
				大館11	根下戸他						
				大館12	餌釣				1		
第2	市街地西	67	70	大館2	常盤木町	1					
				大館9	餅田			^{※2} ①			新規配備
				大館10	川口		1				
第3	市街地北+長木	109	94	大館4	御成町	1					
				大館7	天下町				1		
				大館8	茂内屋敷		1				
					大明神			^{※2} ①			新規配備
第4	釈迦内	68	70	大館5	釈迦内	^{※2} ①					
				大館6	松峰				1		新規配備
第5	二井田	59	57	大館13	二井田	1					
				大館14	本宮			^{※2} ①			新規配備
第6	真中	56	60	大館15	赤石	^{※2} ①					
				大館16	板沢				1		
第7	十二所	87	98	大館17	十二所	1					
					葛原					1	
				大館18	大滝	^{※2} ①					

大館市消防団現況図

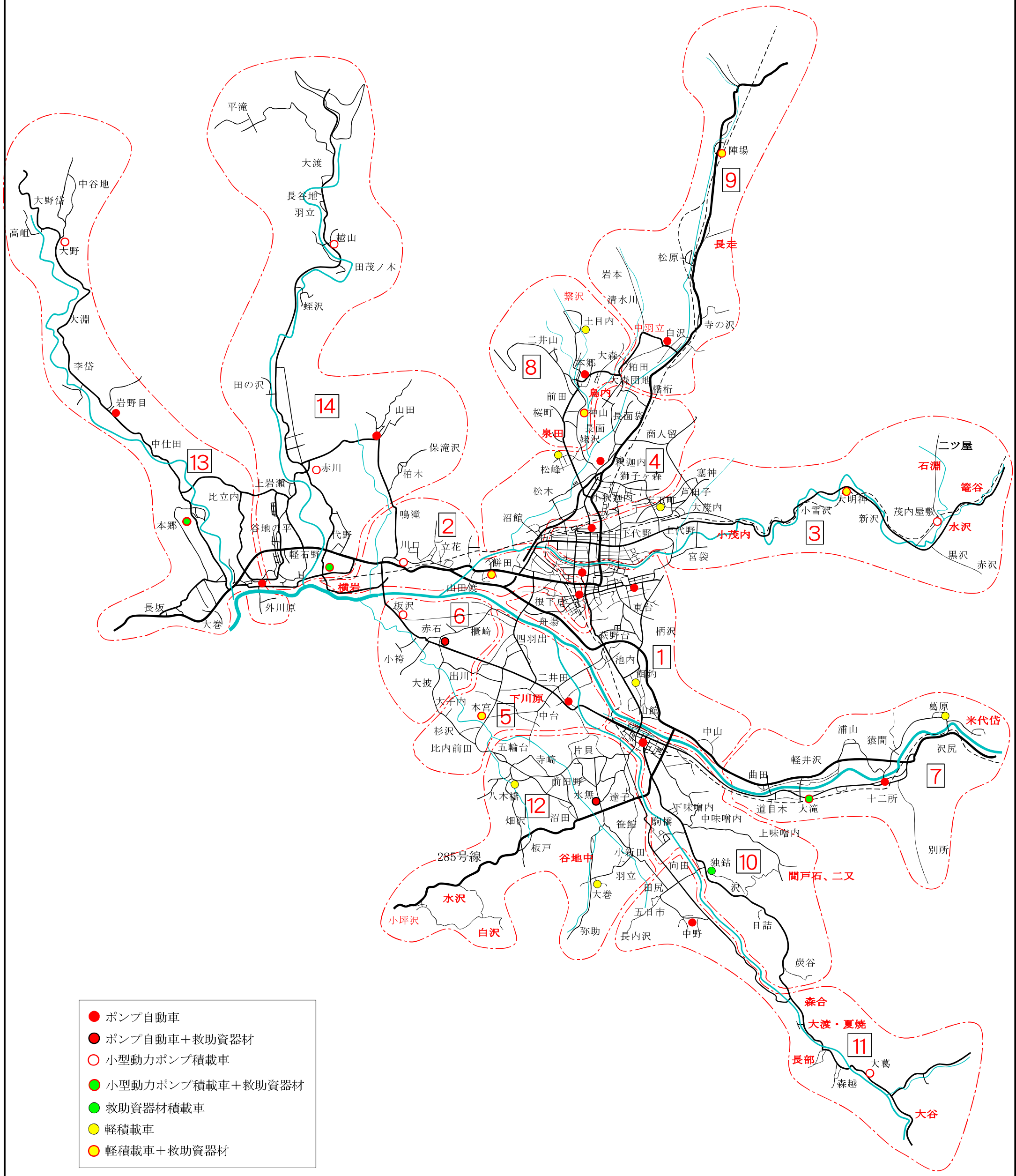


- ポンプ自動車
- 小型動力ポンプ積載車
- 救助資器材積載車
- 小型動力ポンプ積載車(軽自動車)
- 小型動力ポンプ

● 25人未満の分団
 ○ 車両のない分団

※ 赤字の地名は3人以下の班

大館市消防団再編案図

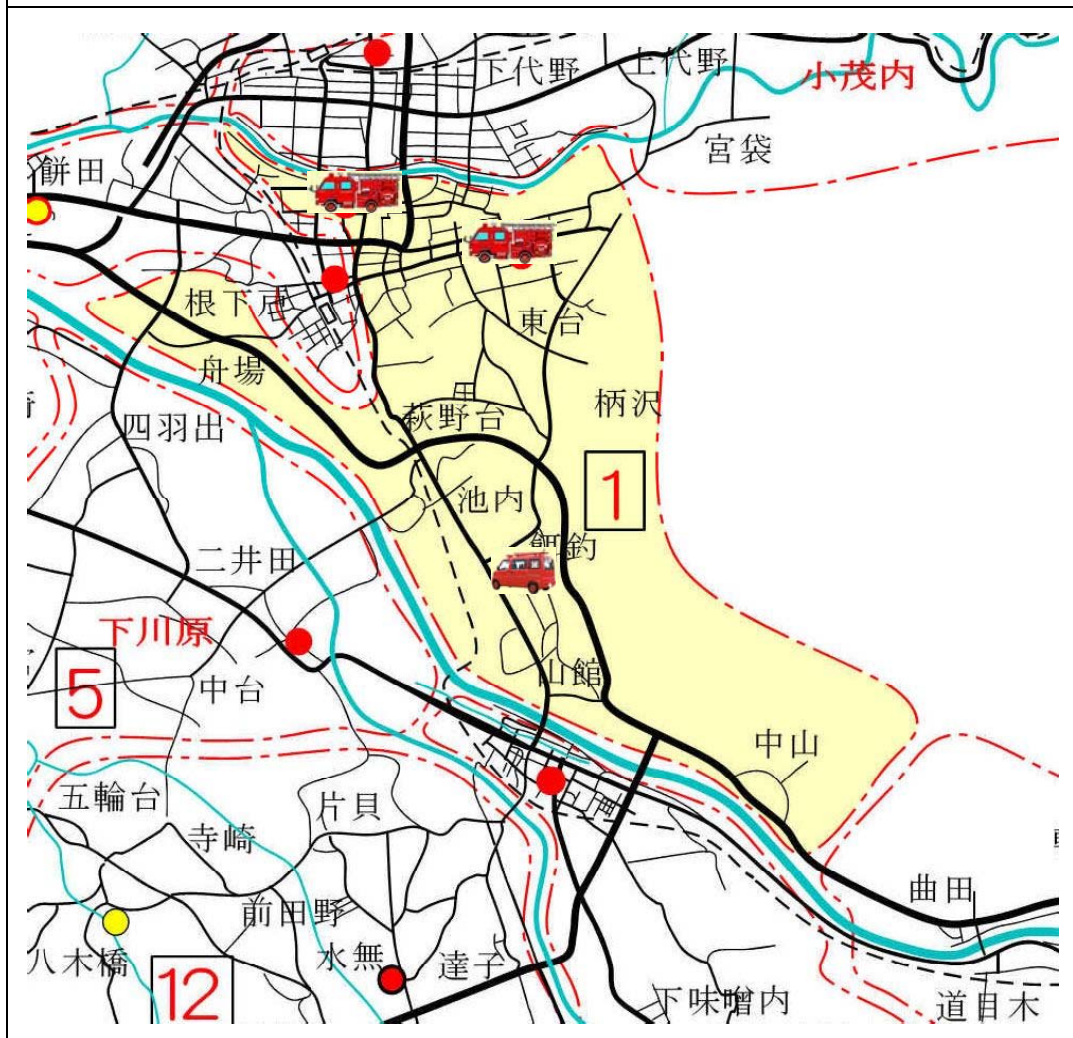


- ポンプ自動車
- ポンプ自動車+救助資器材
- 小型動力ポンプ積載車
- 小型動力ポンプ積載車+救助資器材
- 救助資器材積載車
- 軽積載車
- 軽積載車+救助資器材

※ 赤字の地名は4人未満の班

担当区域図

新第1分団（第1方面隊）

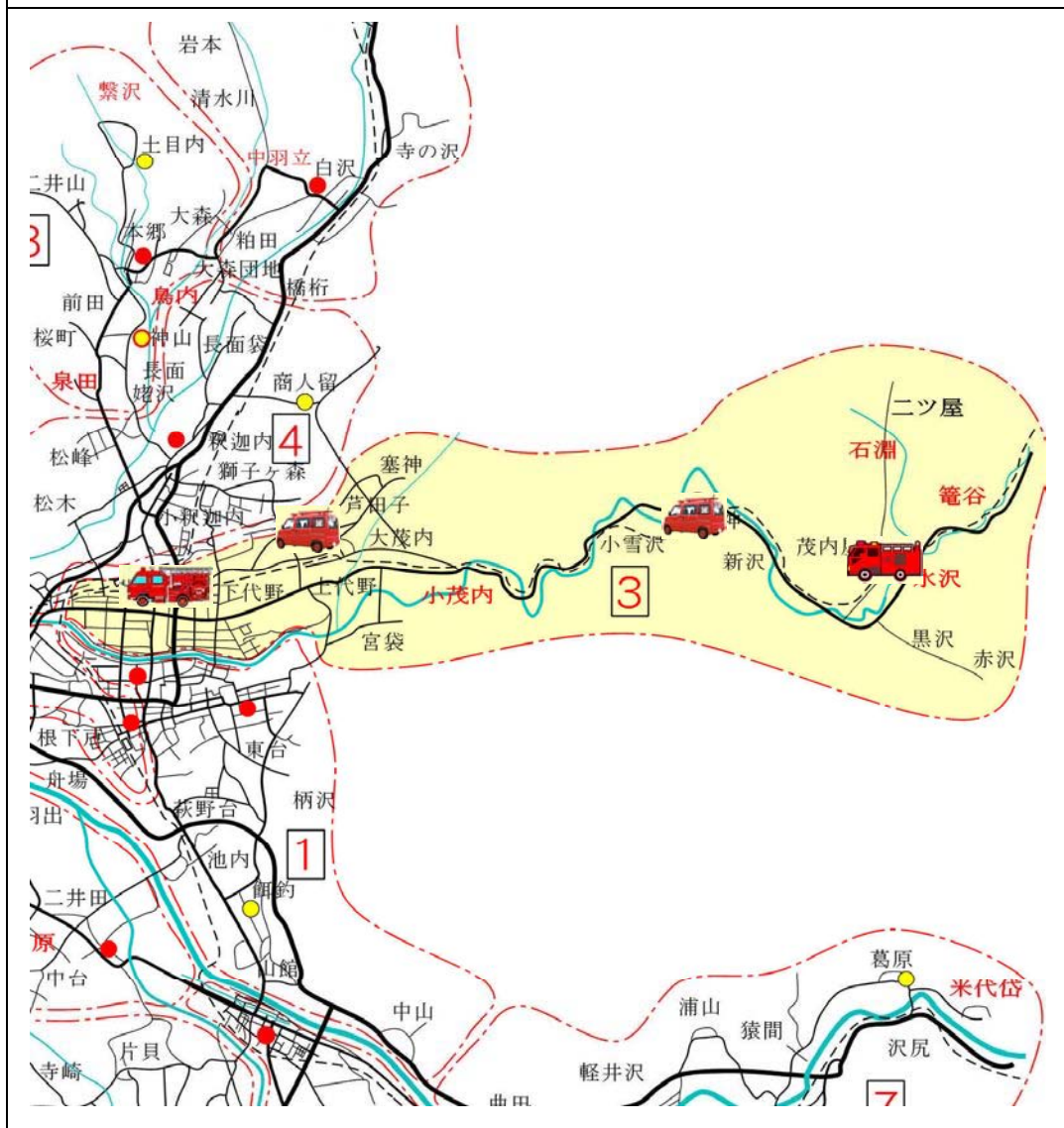


分団名	担当地区
大館1	桂城、金坂、赤館、部垂町、桜町、向町、一心町、谷地町、長倉町、田代町、新町、中町、馬喰町、柄沢、東台、旭ヶ丘、長根山、たつみ町、相染町、緑ヶ丘、南ヶ丘、曙町
大館3	愛宕町、古川町、大下町、鉄砲場、通町、独鈷町、川原町、栄町、田町、末広町、豊町、水門町
大館11	根下戸、舟場、池内、萩野台
大館12	中山、沢山、羽立、金谷、餌釣

団員数	大館第1分団	22人
	大館第3分団	15人
	大館第11分団	21人
	大館第12分団	20人
	計	78人

車両	(東台)	ポンプ自動車
	(田町)	ポンプ自動車
	(餌釣)	積載車(軽自動車)

新第3分団 (第3方面隊)

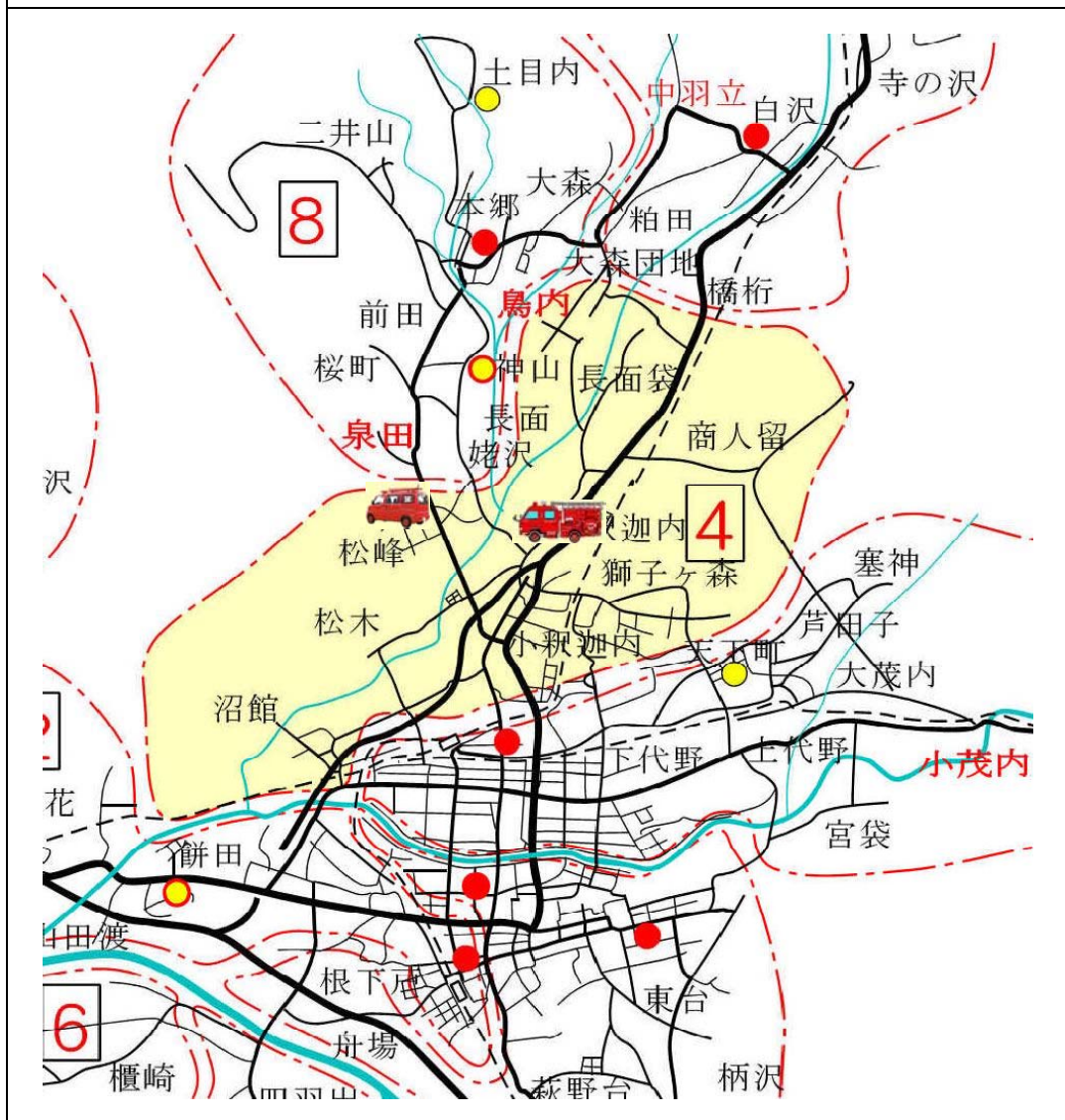


分団名	担当地区
大館4	御成町一丁目～五丁目、有浦一丁目～六丁目、東成町、東有浦町、中道、清水町、清水南町、大田面、観音堂
大館7	上代野、下代野、東二ツ屋、宮袋、大茂内、小茂内、芦田子、塞の神、天下町、鳳町
大館8	小雪沢、大明神、新沢、赤沢、黒沢、水沢、茂内屋敷、籠谷、石淵、二ツ屋、積ヶ岱

団員数	大館第4分団	19人
	大館第7分団	36人
	大館第8分団	39人
	計	94人

車両	(御成町)	ポンプ自動車
	(茂内屋敷)	積載車
	(天下町)	積載車(軽自動車)
	(大明神)	積載車(軽自動車)

新第4分団 (第4方面隊)

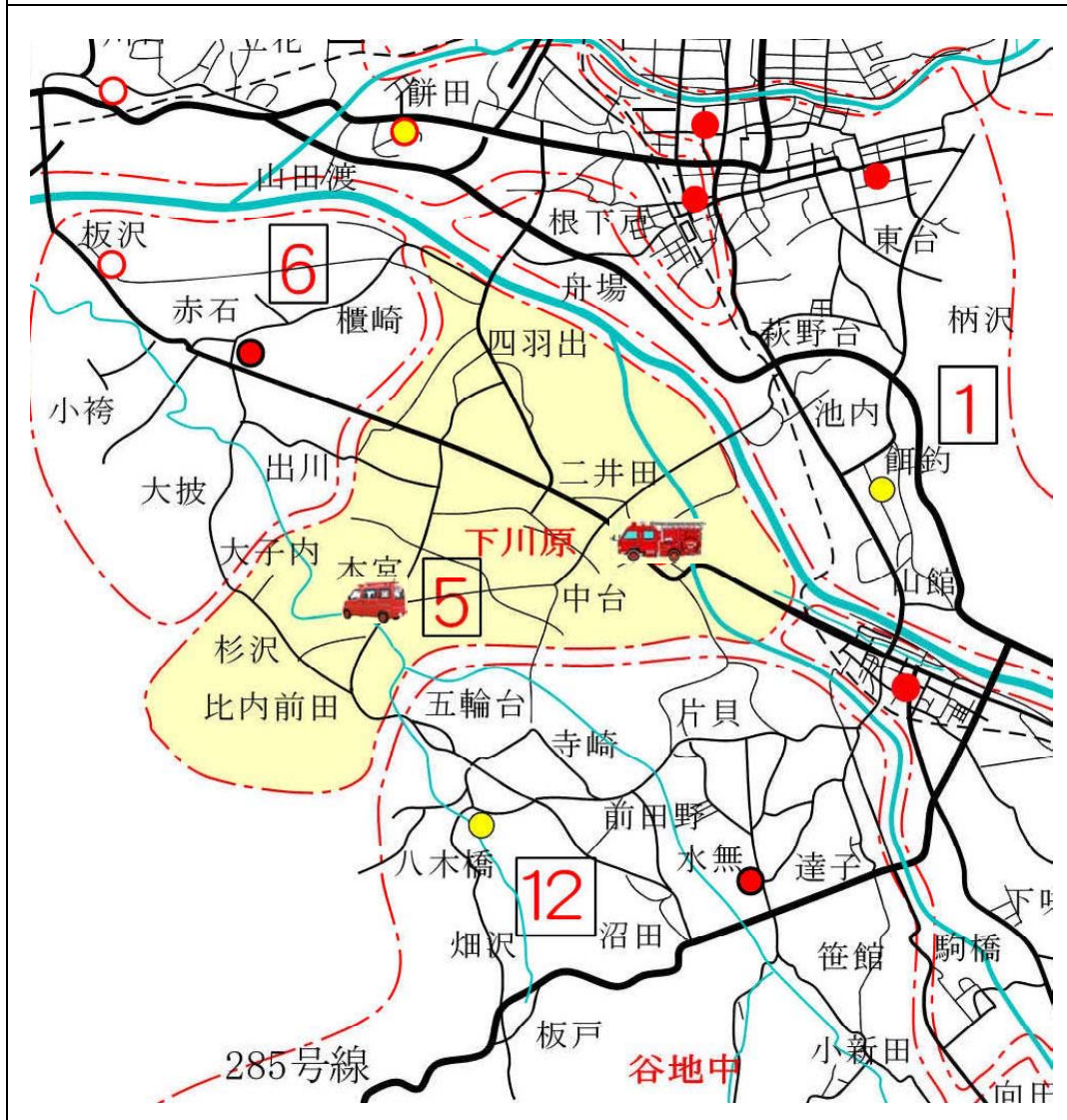


分団名	担当地区
大館5	小釈迦内、板子石、日景町、向羽立、獅子ヶ森、大通、中通、上通、山神台、松木、沼館、上袋町、二ツ森、卸町、高館下、釈迦内中台、北苑団地、日向台
大館6	長面、長面袋、商人留、松峰

団員数	大館第5分団	38人
	大館第6分団	32人
	計	70人

車両	(釈迦内)	ポンプ自動車
	(松峰)	積載車(軽自動車)

新第5分団 (第5方面隊)

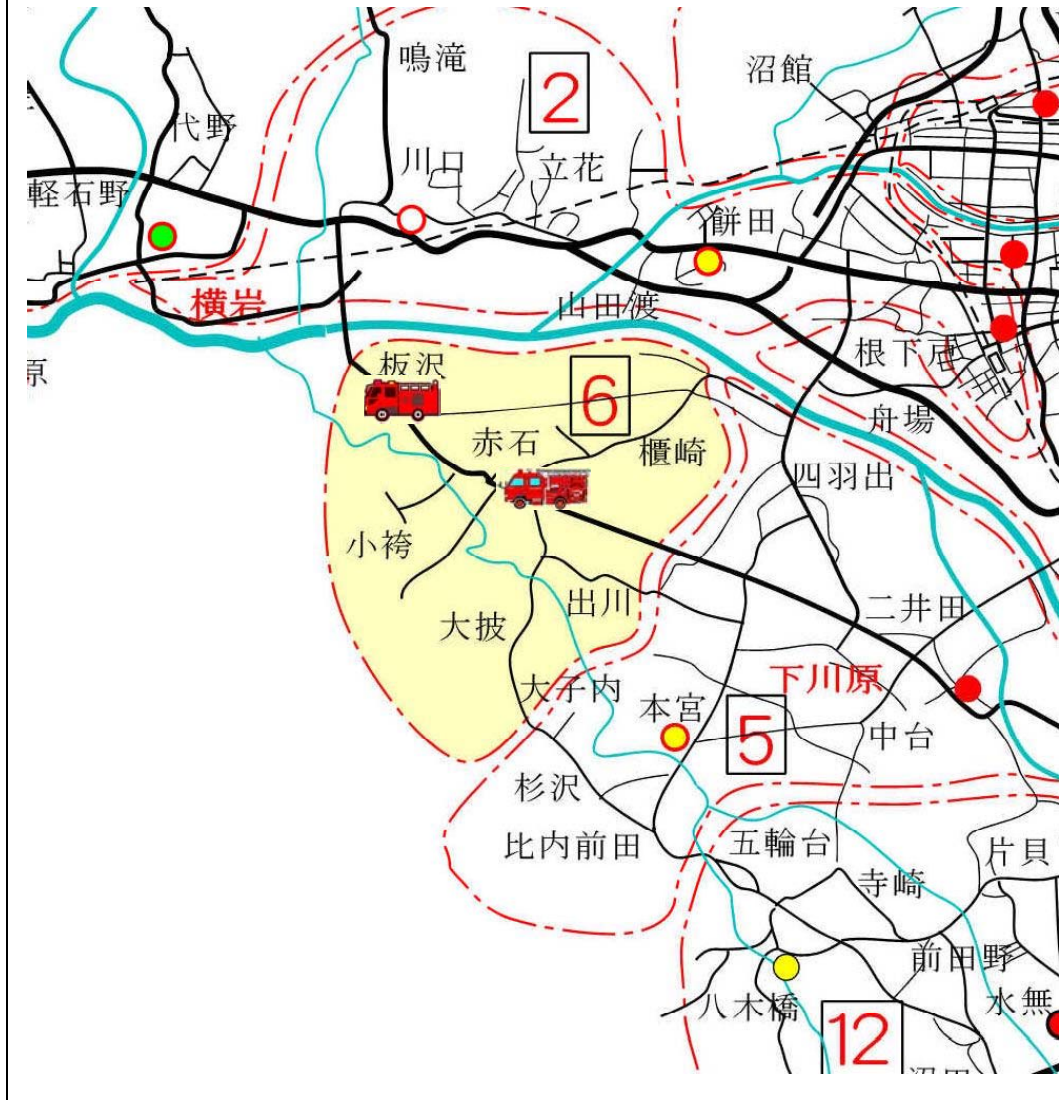


分団名	担当地区
大館 13	下村、町、館、小坪川原、高村、中台
大館 14	四羽出、下川原、本宮、比内前田、杉沢、大子内

団員数	大館第13分団	24人
	大館第14分団	33人
	計	57人

車両等	(二井田)	ポンプ自動車
	(本宮)	積載車(軽自動車)

新第6分団 (第6方面隊)

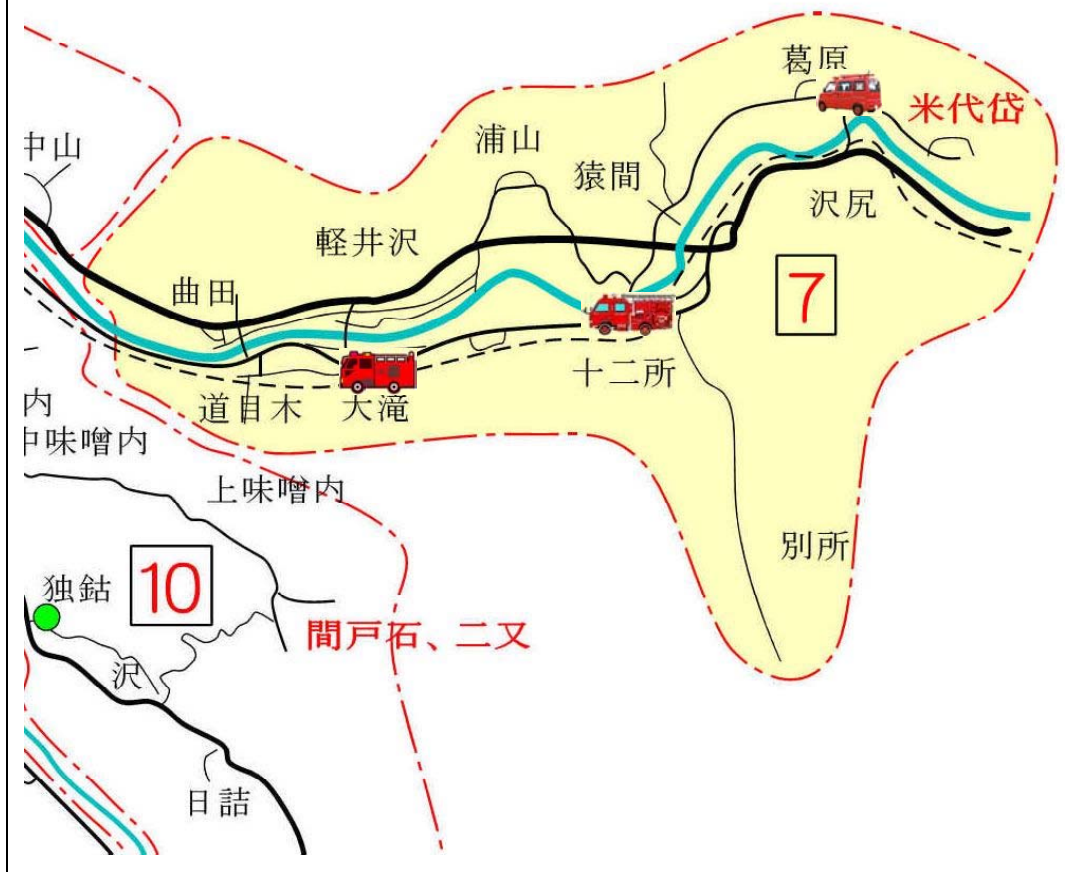


分団名	担当地区
大館 15	赤石、櫃崎、高戸谷
大館 16	板沢、小袴、大披、出川、下川原

団員数	大館第15分団	33人
	大館第16分団	27人
	計	60人

車両	(赤石)	ポンプ自動車
	(板沢)	積載車

新第7分団 (第7方面隊)

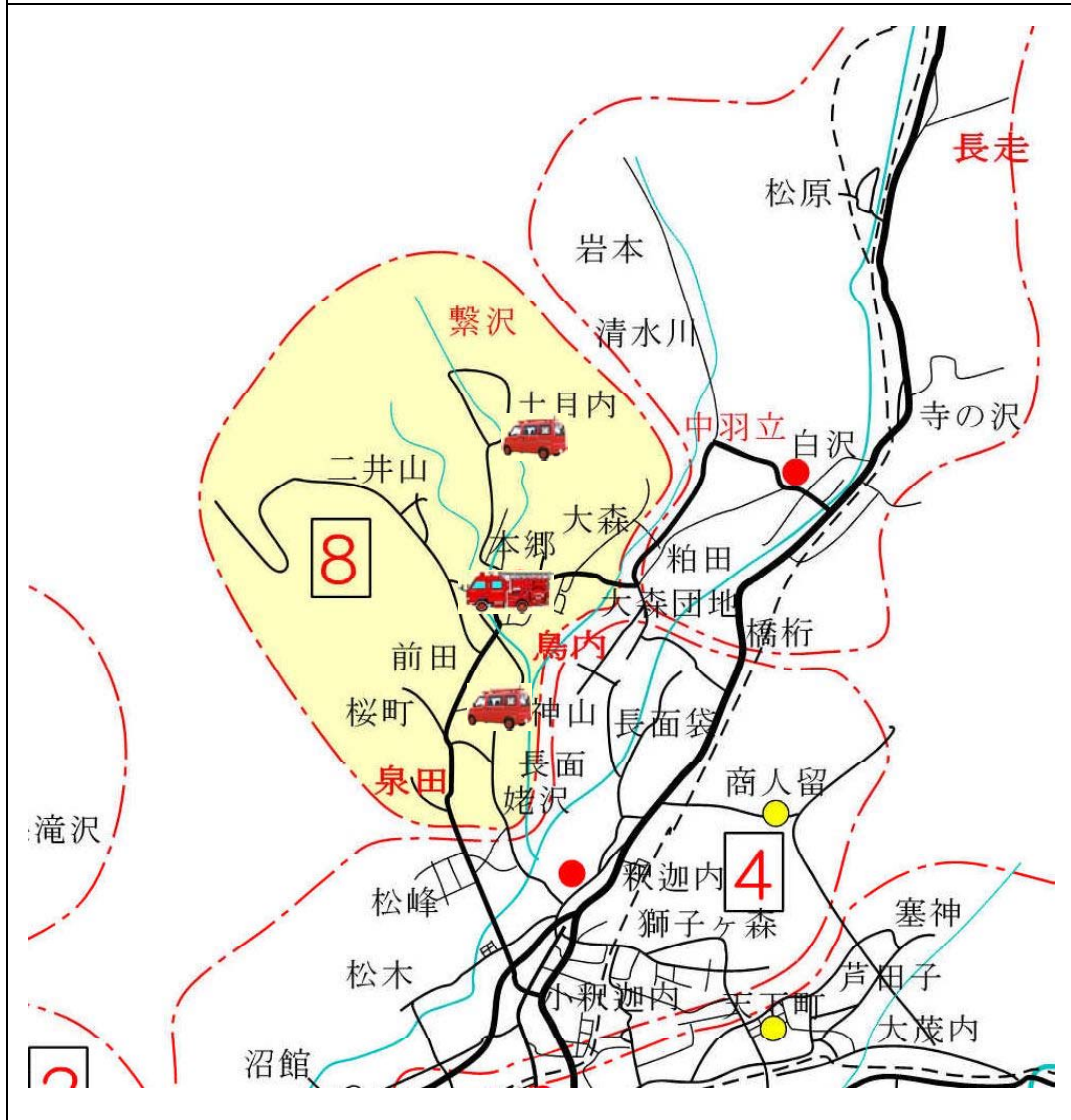


分団名	担当地区
大館 17	十二所下町、中町、上町、上新町、別所、沢尻、原、猿間、浦山
大館 18	大滝、平内、軽井沢、曲田、道目木

団員数	大館第17分団	55人
	大館第18分団	43人
	計	98人

車両等	(十二所)	ポンプ自動車
	(大滝)	積載車
	(葛原)	積載車(軽自動車)

新第8分団 (第8方面隊)

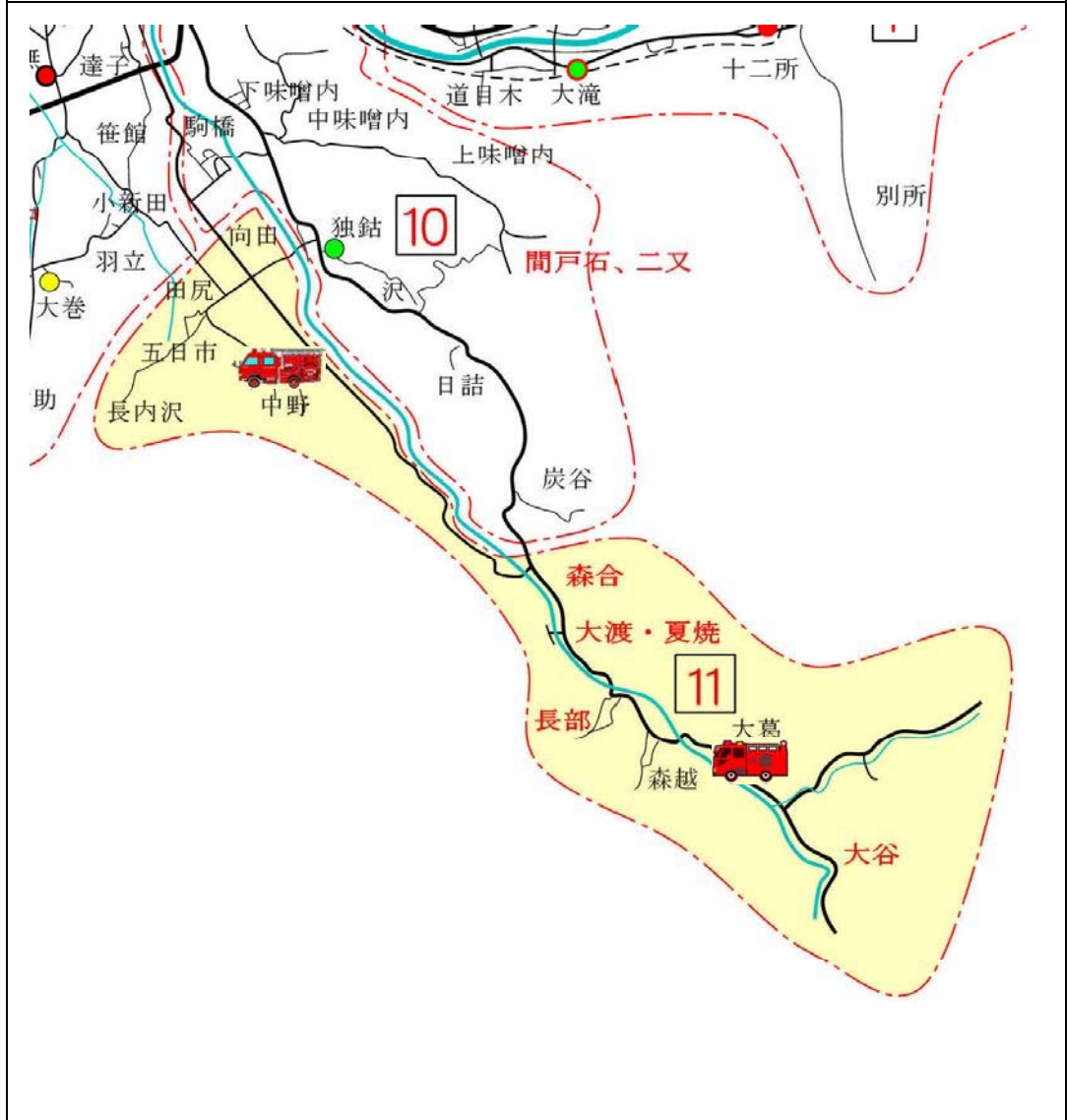


分団名	担当地区
大館 19	本郷上、本郷下、鳥内、十三森、大森、大森団地、花岡団地、長森団地
大館 20	神山、姥沢、桜町、泉田、猫鼻、前田、白根山団地
大館 21	繫沢、土目内、二井山、観音堂

団員数	大館第19分団	17人
	大館第20分団	23人
	大館第21分団	19人
	計	59人

車両	(本郷)	ポンプ自動車
	(神山)	積載車(軽自動車)
	(土目内)	積載車(軽自動車)

新第11分団 (第11方面隊)



分団名	担当地区
比内3	向田、田尻、五日市、長内沢、中野、柄井沢
比内6	大葛地区

団員数	比内第3分団	40人
	比内第6分団	23人
	計	63人

車両	(中野)	ポンプ自動車
	(大葛)	積載車

新第12分団（第12方面隊）

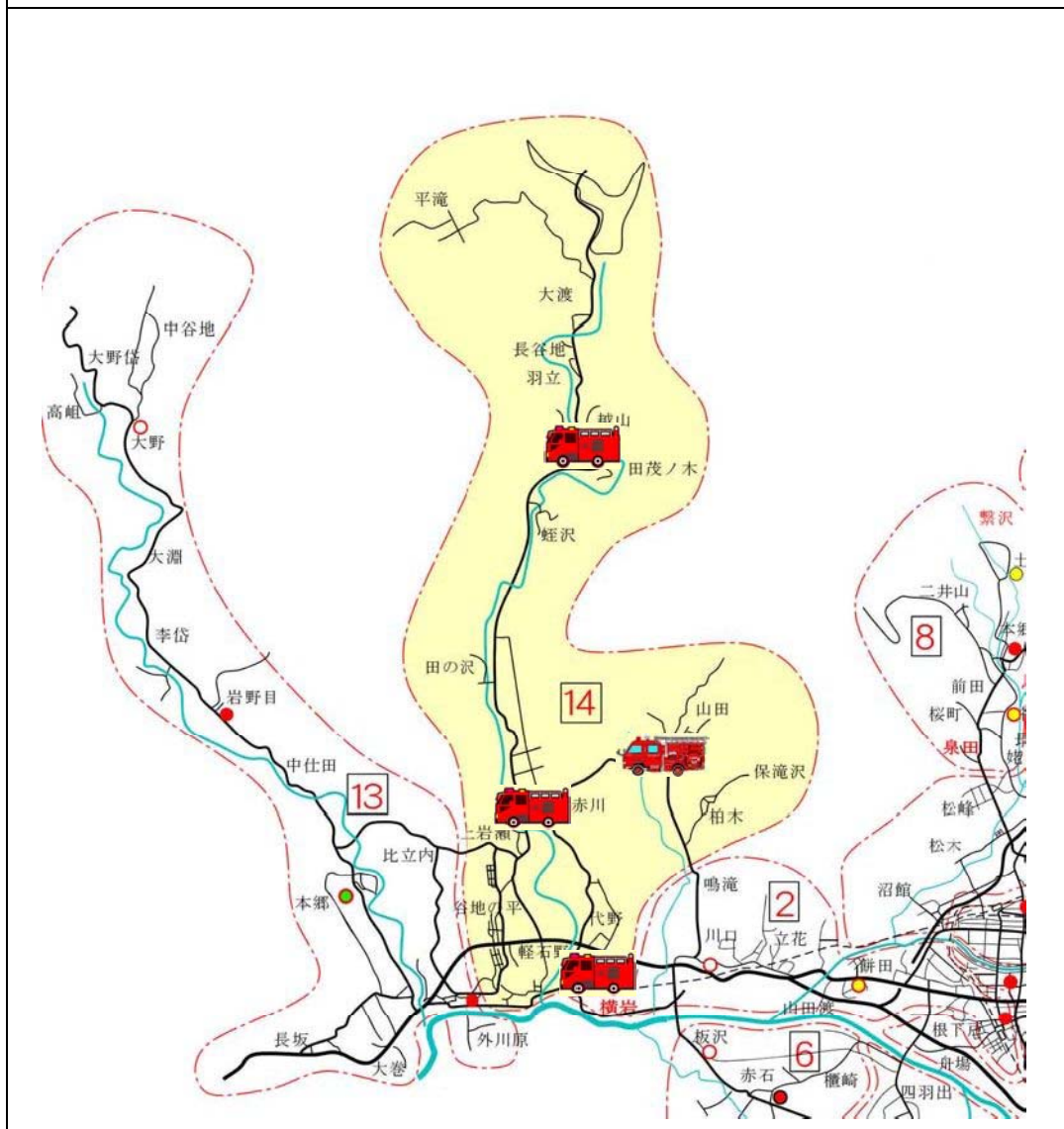


分団名	担当地区
比内4	釣田、達子、水無、笹館、小新田、羽立、大巻、弥助、谷地中、大原木
比内5	沼田、片貝、二ツ森、寺崎、八木橋、一通、五輪台、畑沢、板戸、水沢、白沢、小坪沢、前田野

団員数	比内第4分団	49人
	比内第5分団	56人
	計	105人

車両等	(水 無)	ポンプ自動車
	(八木橋)	積載車(軽自動車)
	(大 巻)	積載車(軽自動車)

新第14分団 (第14方面隊)

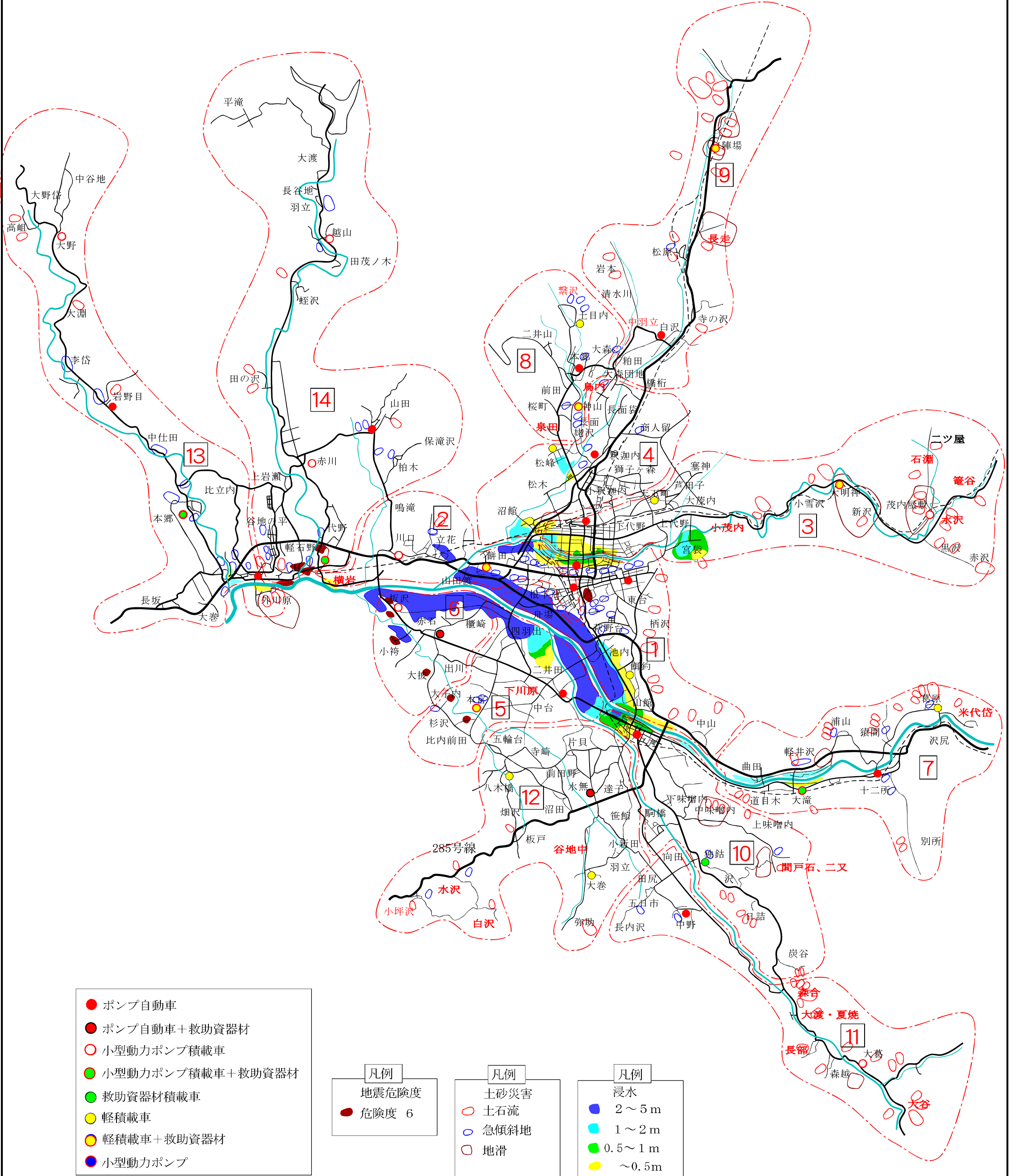


分団名	担当地区
田代2	新新明岱、前田、川反、館町、上名、向館、赤坂、向家下、柏木、保滝沢、美杉
田代3	大柳、街道脇、玉石、伊勢堂下、下岩瀬、杉子沢、赤沼、谷地の平東、谷地の平緑、谷地の平西、南町、桜岱、上軽石野岱
田代7	羽貫谷地、上岩瀬、赤川、代野、茂屋、田の沢、中島
田代8	蛭沢、田茂の木、越山、羽立、長谷地、大石渡、平滝

団員数	田代第2分団	27人
	田代第3分団	22人
	田代第7分団	17人
	田代第8分団	10人
	計	76人

車両	(山 田)	ポンプ車
	(岩 瀬)	積載車
	(赤 川)	積載車
	(越 山)	積載車

災害危険箇所の状況



- ポンプ自動車
- ポンプ自動車+救助資器材
- 小型動力ポンプ積載車
- 小型動力ポンプ積載車+救助資器材
- 救助資器材積載車
- 軽積載車
- 軽積載車+救助資器材
- 小型動力ポンプ

凡例

地震危険度
● 危険度 6

凡例

土砂災害
○ 土石流
○ 急傾斜地
○ 地滑

凡例

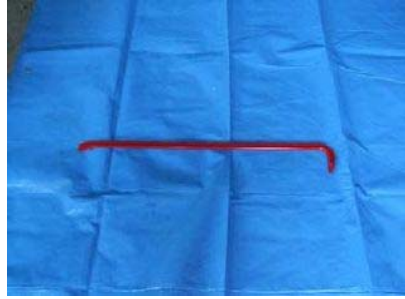
浸水
● 2~5 m
● 1~2 m
● 0.5~1 m
● ~0.5 m

※ 赤字の地名は4人未満の班

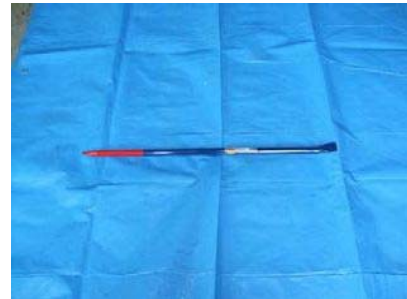
消防団用救助資機材一式(標準)



①スコップ



②平バール



③金テコバール



④ジャッキ



⑤投光器



⑥発動発電機



⑦三脚



⑧コードリール



⑨手動式油圧カッター



⑩エンジンカッター



⑪チェーンソー



⑫ストライカー



⑬4つ折足式担架



⑭自動体外式除細動器



⑮救急セット



⑯収納箱